

2年連続の学部新設が話題を集めた2017年度の医学部入試。定員は増えたものの、高い学力レベルでの少数激戦は変わらない。私大の入試日程変更の影響、志願者数が大きく変わる隔年現象、面接重視の広がりなど、医学部受験の最新動向をお伝えする。

17年春に医学部が新設されるのは、国際医療福祉大の成田キャンパス（千葉県成田市）。昨年春、37年ぶりに東北医科薬科大で新設されたの続く。国際医療福祉大は徹底した英語教育などで、グローバル時代にふさわしい医師の育成をめざす。一般入試

は1000人の募集に対し、2769人が出願した。河合塾麹町校舎長の横井徹さんは「首都圏という立地のよさのうえ、6年間の学費が1850万円と私大で一番安く、人気でした。英語は配点が高いうえ、難しかったようです。英語での授業もあり、得意な生徒に入学してほしいというメッセージですね」と話す。同大の医学部新設は、ほかの大学の志願状況にも影響を与えたようだ。医学系専門予備校メデイカルラボ名古屋校舎長の可児

良友さんは「同日に試験があった自治医大（栃木県下野市）は、志願者数が前年の2292人から2071人に減りました。試験日が重なったことも一因だと思われまます」と指摘する。医学部受験の動向をみるうえで、試験日の重なりは欠かせない。帝京大は試験日を昨年より約1週間早め、3日連続で1次試験を実施。課題作文など2次選考も設けた。「帝京大はまだ志願者数を公表していませんが、試験日が重なった東京女子医大は223人、昭和医大は262人、獨協医大は145人減っています（可児さん）」。昨年は関西医大と同じ日だった北里大。今年は単独日程になった影響からか、

隔年現象に注目 強まる面接重視

では、次に国公立大の医学部の動向をみてみよう。志願者数は前年比98.6%と3年連続で減った。09年以降、景気悪化や入学定員増などで医学部人気は過熱気味だった。近年の雇用

高止まりの人気、続く少数激戦 試験日程変更と隔年現象に注目 新設の国際医療福祉大、倍率28倍に 阪大後期廃止、奈良県立医大が7割増

速報 医学部の志願者分析

写真上は16年春に医学部が新設された東北医科薬科大、右は17年春に新設される国際医療福祉大

センターの配点は、英語と数学が各200点、理科300点に対し、国語は100点だった。

前期も、センターの英数理が各200点に対し、国語が各200点に対し、

は100点と配点が低い。前年比約5割増の徳島大は隔年現象が顕著だ。12年度以降の志願者数は、348→174→264と増減を繰り返している。「徳島大のように個別試験が英数だけの大学は変動しやすい。熊本大の増加や島根大と鹿児島大の減少も、隔年現象です」（竹内さん）

大阪大後期廃止の影響も大きいと思います」と話す。試験科目や配点の変更、2段階選抜導入などにも注目したい。例えば、英数などの教科と同様に、面接を点数化して配点にあらわしめ組み入れる動きがある。河合塾の横井さんはこう指摘する。「弘前大前期は新たに2段階選抜を導入したうえ、英数理各300点だった配点を、英・数・面接各300点に変更しました。これが敬遠されたようで、志願者

が前年より470人減りました。宮崎大後期は昨年は英語、総合問題、面接でしたが、英語、化学、面接に変更して、約6割も増えました」

されまました。志願者は241人減ですが、同大をめざす成績上位層は敬遠せずを受けたと思います」と話す。藤田保健衛生大は昨年まで、受験生と4人の評価者との面接が1回だった。今年は一一般入試で1対1の5分間の面接を4回、推薦入試とセンター試験利用入試で8回実施した。「6年間の学費を640万円値下げしたのに志願者が75人減ったのは、この面接方法が敬遠されたのかもしれない」（可児さん）

公表資料をもとに編集部作成

国公立大医学部の主な志願状況

大学名	前・後期	出願者数			前年比
		2015年	16年	17年	
北海道大	前	295	378	338	89.4%
東北大	前	447	366	405	110.7%
東京大	前	481	546	527	96.5%
東京医科歯科大	前	388	396	366	92.4%
東京医科歯科大	後	160	202	194	96.0%
名古屋大	前	249	271	238	87.8%
名古屋大	後	65	78	60	76.9%
京都大	前	328	330	331	100.3%
大阪大	前	227	212	200	94.3%
九州大	前	379	351	342	97.4%
難関大学					
奈良県立医大	後	1071	831	1418	170.6%
奈良県立医大	前	304	191	324	169.6%
宮崎大	後	419	229	364	159.0%
福井大	前	218	218	346	158.7%
熊本大	前	533	358	546	152.5%
徳島大	前	588	174	264	151.7%
香川大	後	422	397	596	150.1%
山口大	前	564	399	550	137.8%
富山大	後	324	321	437	136.1%
札幌医大	前	458	272	369	135.7%
志願者の増加率が大きかった大学					
浜松医大	後	186	314	145	46.2%
弘前大	前	889	954	484	50.7%
島根大	前	559	612	324	52.9%
鹿児島大	後	279	354	203	57.3%
鹿児島大	前	300	414	247	59.7%
愛媛大	後	597	854	567	66.4%
三重大	後	150	225	154	68.4%
旭川医大	後	706	724	502	69.3%
浜松医大	前	472	603	420	69.7%
愛媛大	前	398	391	287	73.4%
志願者の減少率が大きかった大学					

「昨年まで簡単にしていた面接に時間を割いています。今後は医師としての自覚や資質をしっかりと見ると思いますが」（亀井さん）

志願者数が微減とはいえ、難関ぶりは変わらない。学力とともに、医師になるための資質や自覚もより問われている。 庄村敦子